

ノート

ワーキングマザーのためのビジネスウェア商品開発

藤田 薫子\*<sup>1)</sup> 平山 明浩\*<sup>1)</sup> 大橋 健一\*<sup>2)</sup> 森山 やよい\*<sup>3)</sup>

Product development of business dress for working women

Kaoruko Fujita\*<sup>1)</sup> , Akihiro Hirayama\*<sup>1)</sup> , Kenichi Oohashi\*<sup>2)</sup> , Yayoi Moriyama\*<sup>3)</sup>

キーワード：マタニティ，ワーキングマザー

Keywords：maternity, working mother

1. はじめに

ワーキングマザーの就労人口は年々増加傾向にある。なかでも自身のキャリアや社会に対する貢献など各々、就労意義を求め生き生きと働く女性の姿が多く見られる。しかし、勤務中のワーキングマザーを支える職場環境や衣生活環境の整備は、まだ充分ではないのが現状である。そこで更なる女性の社会進出を支援するため、体型変化の大きい妊娠期間における衣服について、ユニバーサルデザインの視点から取り組み、職場で働き易く快適に過ごせる機能や妊娠時のマイナートラブルに配慮したビジネス・マタニティウェアの開発を試みた。

2. 内容及び結果

2.1 ターゲットモニターへのアンケート調査 ビジネス用マタニティウェアに対する意向、嗜好、ビジネスシーンに求められる機能について、表1のアンケート調査を実施した。

表1. アンケート，インタビュー調査

調査方法	郵送によるアンケート調査 インタビュー調査
対象条件	①現在妊娠中でありフルタイムで就業 ②1年以内に出産経験がありフルタイムで就業。
調査人数	①都内在住 20歳代女性 30名 ②全国在住 30歳代女性 28名

(1) 調査結果

- ①調節機能としてサイズ調節，体温調節，着脱への配慮，等の要望があった。(34名)
- ②授乳口，ポケット，腰痛サポート等，便利機能の付加について要望があった。(18名)
- ③ジャケットとパンツのコーディネートが好まれ，ジャケットはバリエーション展開の要望があった。(24名)
- ④着脱の際，お腹周りのニット素材と連動するアジャスタ

一仕様の要望があった。(31名)

⑤スカートはウエストのサイズ調節機能と共に，丈調節機能の要望もあった。(13名)

2.2 ターゲットモニターによる体型計測 サイズ調整機能を工夫するため，図1に示すように体型変化の大きい5ヶ月～10ヶ月までの隔週の体型を表2のとおり計測した。

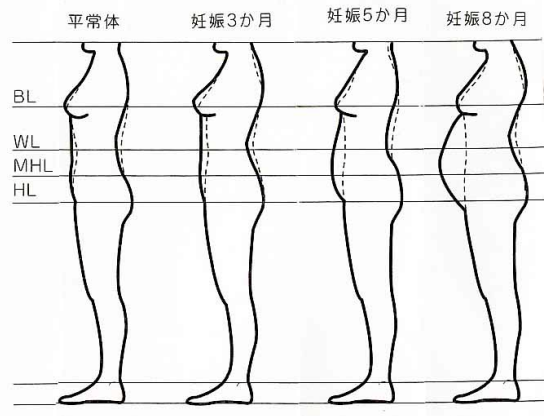


図1. 体型線の変化

表2. 体型計測の内容

計測方法	マルチン計測器，メジャーによる計測
被験者数	フルタイム就業ワーキングマザー 6名
計測箇所	バスト，アンダーバスト，ウエスト，ミドルウエスト，ヒップ，ミドルヒップ，肩幅，着丈，背丈，身長

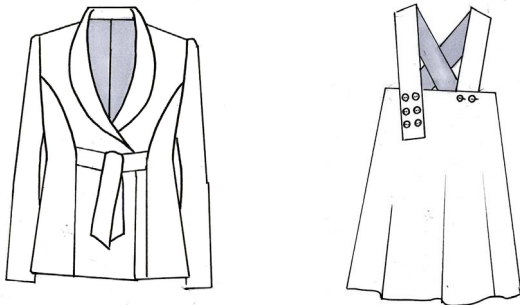
(1) 計測結果 被験者の非妊娠時と妊娠時との体型変化の特徴は，下記の結果（傾向）となった。

- ①6ヶ月以降からウエスト間隔が約4cmピッチで増加。  
非妊娠時：W66cm 妊娠7ヶ月 W96cm（平均値）  
例 被験者A（測定結果 2週目：79.8cm 4週目：84.3cm）
- ②バスト～ウエストまでの差異が少ない。  
非妊娠時：B82cm 妊娠7ヶ月：B92cm（図1）  
7ヶ月近くより顕著な傾向が見られた。
- ③6ヶ月以降，下腹部に重さがかかり僧帽筋周辺の厚みが増加傾向にある。

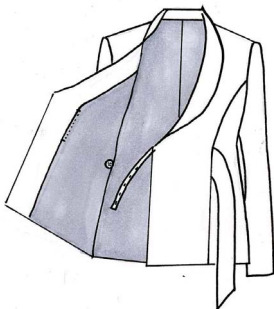
\*<sup>1)</sup> 墨田支所 \*<sup>2)</sup> 株式会社オブティマミー \*<sup>3)</sup> 株式会社オブティマミー

\*<sup>2)</sup> 技術経営支援室

**2.3 デザインと機能** 身体を動かしやすく、ビジネスウェアとして軽量、耐久性ストレッチ性に優れ伸張回復性のある素材（中空糸ポリエステル70%、ウール26%、ポリウレタン4%）をジャケットに使用した。アンケートと体型計測の結果をもとにサイズ調節、便利機能、快適性などに配慮し図2のデザイン特徴とした。



(a) ジャケット



(b) スカート

図2. デザイン特徴

上記ジャケット（図2-a）は、サッシュリボンと内側のアジャスターが連動することで、平常時のウエスト63cmから妊娠時96cmまで対応可能にした。僧帽筋周辺の厚みに対し背中心のキセ分量を多くとり、動きやすさに配慮した。スカート（図2-b）については、サスペンダー仕様とし、ボタン位置の移動でサイズ調節できるようにした。

**2.4 モニターによる試着試験** 図2のデザイン特徴を生かした試作品を作成しモニター6名の勤務中の試着試験を行った。（図3）



図3. 試着試験

(1) **試着試験結果** 着用後のインタビュー結果は以下のとおりである。

- ①いままでのジャケットに比較して素材の軽さ、着心地の良さが感じられた。（6名）
- ②ジャケット、スカート全てにポケットがついており、利便性を感じた。（4名）
- ③スカート釦式サイズ調整機能、内臓アジャスターは、締め付けず動きやすい（6名）
- ④フォーマルなアイテム必要不可欠だが、手持ちウェアとコーディネートしやすいデザインが高評価（4名）
- ⑤ジャケットの内臓アジャスト部位が目立たず、リボンでカモフラージュされスマートに見える（5名）

### 3. まとめ

ターゲットモニターの意向、嗜好調査、体型計測によりユーザーが求めるビジネスウェアの機能が明確となった。商品開発において、配慮すべきポイントをまとめると以下のとおりである。

- ①ビジネスシーンに適応するテーラードをベースにしたジャケットバリエーションがデザイン展開が必要。
- ②お腹まわりの調節機能は内蔵型アジャスターが有効。
- ③体型特徴をできるだけカバーするパターン設計が重要。
- ④ポケットやイージーケアなど日常の利便性に配慮する。
- ⑤体型変化に合わせて、産前産後のウェア利用を考慮したデザイン設計が有効。
- ⑥衣服の負担をなくす軽量素材や、伸張回復性の高い機能的な素材が有効。

以上の点に配慮し、ビジネスウェアの商品展開を行った。



図4. ビジネス用マタニティウェア

この研究をもとに平成21年2月に機能性と快適性を兼ね備えた「新・ビジネス用マタニティウェア」の販売が開始され大変好評を得ている。（図4）

これまでの研究結果を、アパレル企業に向けた技術支援に活用し、市場活性化の一助としたい。

（平成21年7月13日受付、平成21年10月8日再受付）